



図書館員が選ぶ この一冊

13

『盲導犬クイールの一生』

石黒謙吾/著 秋元良平/写真 文藝春秋

ある一頭のラブラドル・レトリバーが盲導犬として生きたドキュメンタリー。盲導犬は、「生まれの親、育ての親、しつけの親」と3者が関わって、慎重に適性を見極め、訓練を受ける。最終目標は視覚障害者の目となり働くこと。彼はクイールと名付けられ、愛情と時間とを注がれ盲導犬へと成長していく。



クイールの一生と同時に、関わった人たちの人生も記す。それぞれの役割を持つ親たち、盲導犬として共に暮らした人、誕生から写真に収め続けた写真家、その写真集から盲導犬を知り、本を書いた著者。すべての人の熱い思いが伝わる。